

柳亭こみち



真打ち昇進 進め、落語界の大道へ!!

市長このたびは真打ちへの昇進、誠にめでたうございます。また、本日はお越しいただきありがとうございます。どうぞよろしく申し上げます。

こみち師匠(以下、師匠)

ありがとうございます。本日はよろしく申し上げます。今までは私が市内で高座を勤めたとき、何度か市長がいらつしやう、あいさつなどはしていただき、ありがとうございました。ずっと遠くから眺めることしかできなかった市長と、今日やっと間近でお話しができて、うれしいです。

いざ、落語の世界へ

市長落語の世界に入ったきっかけは何ですか。
師匠20代のころ、すでに会社員でしたけれど、当時興味のあることは全部やろう、会いたい人にはみんな会おうと思つて生きていました。そんな折に、ひよんなことから柳家小三治、今の大師匠(師匠の師匠のこと)の高座を聞き、「このおじいさん、世界一おもしろい」と心が雷に打たれたような衝撃を受けました。普通の人ならそこから落語ファンになるんですけど、私はそうではなくて「私はこういうふうに住きたい、落語家になりたい」と思つて。周りからは「よく決心したね」と言われますけど、決心するとか、悩むとかもなく自分ですごく決めて、人生のかじを大きく切っていました。

市長人生で天職、天命に出会うことはある意味幸せなこと

ですね。当時はまだ大師匠は人間国宝ではなかったでしょうけど、国宝級のおもしろさを見抜いたのは、こみち師匠に先見の明があったのではないですか。
師匠私が入門した師匠の柳亭

燕路は大師匠・小三治の5番目の弟子ですが、大師匠のやり方を継いでいまして、現代的なギャグが盛りだくさんのようなことはせず、落語直球勝負でお客さまに江戸の情景を味わっていただくという古典的なやり方をして寄席に出続けていまして、はなし家の師匠に入門しようと思ひました。それで弟子入り志願の際、師匠にとつてよく知らない人間が四六時中家にいるのは気持ち悪いだろうと思ひまはして、私は0歳から5歳まではこのように過ごして、小学生から高校生はこんな人間でしたと、人生の履歴書を書い、自分の人生の特徴を書い



て、それを手紙と共に持って行きました。

市長それはユニークですね。

「こみち」というお名前は燕路師匠が付けられたのですか。師匠そうですね。大師匠・小三治の「小」と師匠・燕路の「路」をいっただいて「こみち」です。柳家一門には「小〇〇」という者が大勢いるので、ひらがなの方が埋もれず、据わりがいい、また私の雰囲気合っているとのことでひらがなになりました。二ツ目に昇進する際に、名前を変えても良

かったのですが、「こみち」という名が絵画24画で落語家としてはこれ以上ない、いい画数だから変えない方がいい」と大師匠から言われまして、そのまま乗ってききました。市長それで、今回の真打ち昇進でもお名前はそのままなのですね。名前は「こみち」ですが、こみち師匠には今後もぜひ落語の「大道」を歩まれることを期待しています。

大変だった修行時代

市長「会社員」という別の世

界から落語の世界に入られて、特に女性で、入門当時はまだ20代でしたからご苦労もなかつたのではないですか。師匠入門した際に師匠からは「師匠の家を磨くことで自分の心を磨く」と言われて、入門した日から師匠の家でトイレ掃除も風呂掃除もやりました。雨の日も風の日も雪の日も、熱がある日も、睡眠不足の日も、体調が悪い日も、1年365日必ずやりましたね。前座時代には自分の意思や都合、体調などは関係なかったの

で、前座時代には休みが本当になく、寝不足が続いてもその寝不足を回復させるときは一度も訪れない。一度なつた寝不足をずっと引きずったまま、4・5年間ただ走り続けましたので、体力的に本場にきつかったですね。市長途中で辞めたいと思つたことはないのですか。師匠実は前座の間は稽古をほとんどさせてもらえませんでした。そうすると、「落語をやりたい、落語をやりたい」という気持ちがあいさつ膨らみ、「二ツ目に昇進すれば落語を思う存分稽古できる」と夢見ながら前座時代を過ごしました。だからそこで辞めてしまつては落語をやりたい、落語をできないままはなし家を辞めることになつてしまつたので、辞めようとは思ひませんでした。

市長すごいんですね。そこまでしても落語をやりたいという思いが強かつたのですね。師匠そうですね。ほかに、修行時代に「おはようございます」のあいさつを一日に何十回も稽古させられたことがあります。私たち芸人はあいさつがすべてと師匠から教わりますが、以前は朝、師匠に会つたときに、「おはようございます」と言つて、そのまま立ち上がつて台所や洗濯物干しに行つていました。師匠が起床して一番に声をかけるのは私だったので、師匠からお前のあいさつは俺の一日の切符だ。お前のあいさつの出来が悪く、俺の気分を損ねたら、俺の一日が台無しだ。俺の一日の気持ちがよくなるあいさつをしてくれ。」と言われ、「まああいさつするときは人の目を見て頭を下げて、人の目を見てあいさつは終わるものだ。」と、稽古させられました。

柳亭こみちさんからのメッセージをご覧ください

市公式YouTubeチャンネルでは、落語家、柳亭こみちさんから市民の皆さんへの動画メッセージを掲載しています。落語でおなじみの登場人物「ご隠居」と「はっつあん」がこみちさんのうわさ話をしている、そんなお話です。

市公式YouTubeチャンネルでは、ほかにも市の実施する事業・イベントを掲載していますので、ぜひご覧ください。

<https://www.youtube.com/channel/UCcf5mI83FE4FjsGZ5Qs-uNg>

プロフィール

一般社団法人落語協会所属の落語家
昭和49年12月10日生まれ。
東村山市で育ち、南台小学校に入学、富士見小学校、東村山第一中学校出身。
大学卒業後出版社に就職。友人に誘われて観た寄席で柳家小三治大師匠の落語と出会う。
平成15年に会社を辞めて七代目・柳亭燕路師匠に弟子入り。
平成18年11月に二ツ目に昇進。
平成22年に漫才師「宮田陽・昇」の宮田昇氏と結婚。現在2児の母。
平成29年9月に落語家最上位の真打ちに昇進。

柳亭こみち 真打ち昇進記念公演

当市出身の落語家、柳亭こみちさんが、真打ち昇進を記念して公演会を開催します。

日 2月17日(土)午後2時開演(午後1時30分開場)

場 中央公民館(本町2-33-2)

出演者 柳亭こみちほか

費 1,000円(全席指定)

チケット 1月5日(金)午前9時から市内各公民館で販売

※1人4枚までです。

※1月5日(金)に中央公民館で購入する場合は、府中街道側の入り口に並んでください。

電話予約 1月9日(火)から中央公民館で受付

託 1歳~就学前の幼児、先着4名(要予約、おやつ・飲み物持参)

主催 東村山市、東村山市教育委員会

問 中央公民館(☎395-7511)

市長あいつ一つ取つても、厳しい世界ですね。
こみち師匠の落語への想い
市長持ちネタはどのくらいあるのですか。
師匠120くらいですね。そのうちすぐにできるのは3割くらい、ちよつとお稽古するところの3割くらい、一生懸命お稽古すればできるのが3割くらいですね。

続きは3面へ